

会社の概要

会社名 東洋合成工業株式会社
 本社 東京都台東区浅草橋1丁目22番16号
 ヒューリック浅草橋ビル8階
 設立 1954年9月27日
 資本金 1,618,888,703円
 従業員数 930名(2024年9月30日現在)
 事業内容 ・ディスプレイ(液晶並びに有機EL)用、並びに半
 導体用として各露光波長に対応した(紫外線、
 KrF、ArF、EUV各世代)感光材、ポリマー製品
 ・半導体・電子材料向け高純度合成溶剤、香料向
 け化学品、液体化学品の保管管理・物流倉庫業
 ホームページ <https://www.toyogosei.co.jp/>

役員

(2024年9月30日現在)

代表取締役社長 木村 有仁 常勤監査役 森 寧
 常務取締役 出来 彰 監査役 越山 滋雄**
 取締役 平澤 聡美 後藤 亨**
 渡瀬 夏生
 鳥井 宗朝* *社外取締役
 松尾 時雄* **社外監査役

株式の状況

発行可能株式総数 30,000,000株
 発行済株式総数 8,143,390株
 株主数 5,970名

株主メモ

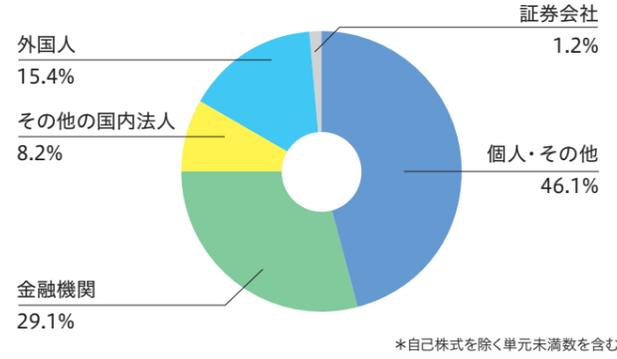
事業年度 4月1日から翌年3月31日
 定時株主総会 毎年6月下旬
 剰余金の配当の基準日 3月31日 中間配当を実施するときは9月30日
 定時株主総会基準日 毎年3月31日 ※その他必要がある場合は、予め公告いたします。
 単元株式数 100株
 公告方法 電子公告により行います。
 公告掲載URL <https://www.toyogosei.co.jp/ir/koukoku.html>
 ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
 みずほ信託銀行株式会社
 同事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
 株式の諸手続き 口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。
 特別口座をご利用の株主様は、みずほ信託銀行株式会社0120-288-324(フリーダイヤル)までお問い合わせください。

東洋合成工業株式会社

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1丁目22番16号
 ヒューリック浅草橋ビル8階
 TEL 03-5822-6170
 E-mail ir@toyogosei.co.jp



株式の分布状況



大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
木村 有仁	1,094	13.8
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	695	8.8
木村 愛理	583	7.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	389	4.9
株式会社千葉銀行	298	3.8
株式会社きらぼし銀行	298	3.8
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505025	283	3.6
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	248	3.1
木村 正子	205	2.6
株式会社TGホールディング	200	2.5
公益財団法人東洋合成記念財団	200	2.5

当社は、自己株式を206千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。また、持株比率は自己株式(206千株)を除外して計算しております。



第75期 第2四半期報告書

2024年4月1日 ▶ 2024年9月30日



証券コード：4970



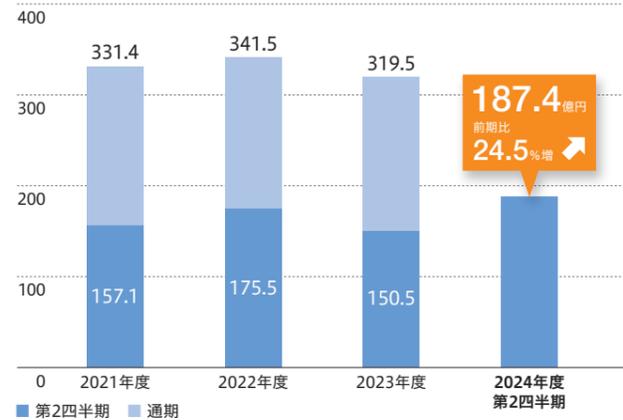
当第2四半期のポイント

売上高は、前期比24.5%増の187.4億円。AI関連投資を背景に先端半導体向け材料などの売上が拡大し、半期としては過去最高を更新。営業利益は、前期比67.9%増の21.7億円。売上増加により生産能力増強の費用増を吸収し、円安の寄与もあり、大幅増益。

業績概要

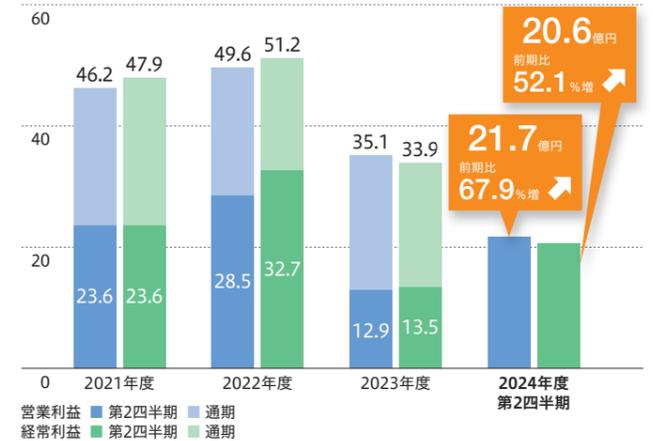
売上高

(単位：億円)



営業利益 / 経常利益

(単位：億円)



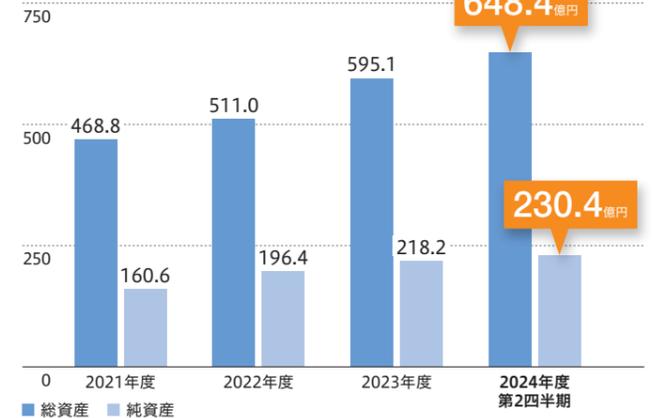
四半期(当期)純利益

(単位：億円)



総資産 / 純資産

(単位：億円)



トップメッセージ



代表取締役社長

木村 有仁

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに、第75期上期(2024年4月1日から2024年9月30日)の業績概要と今後の見通しにつきましてご報告いたします。

70年間のご協力への感謝を礎に、次なる成長へ

当社は、2024年9月27日に創立70周年を迎えました。70周年を迎えることができましたのも、今まで当社の成長をお支えいただいた皆さまのご協力の賜物と、心より感謝申し上げます。当社が開発・提供する先端半導体向け感光材や高純度溶剤は、半導体産業の成長を支え、世界シェアNo.1企業として先頭を走り続けております。また、化学品タンクターミナルも変革期の化学品サプライチェーンを支え続けております。当社では、さらなるイノベーションが必要とされる未来に向け、創業者が志した“今は形が現れざる、見えざるものへの挑戦”を加速してまいります。引き続き、全社員一丸となって取り組んでまいりますので、これからも皆さまからの変わらぬご支援とご指導、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当上期の経済環境

当上期における海外経済は、世界的なインフレが落ち着きを見せ、各国では金融引き締め政策からの転換期となりました。米国では、個人消費に支えられ景気は底堅く推移しました。欧州では一部製造業に弱さが見られるものの、個人消費の持ち直しにより、緩やかに回復しました。また、中国では国内需要の低迷により景気停滞が続きました。

国内経済は、インフレによる実質賃金の伸び悩みから個人消費に停滞感が見られましたが、円安やインバウンド需要を背景に企業業績が好調に推移し、緩やかな回復となりました。しかしながら、世界的に長引いた金融引き締め政策による海外の景気下振れリスクや急激な為替変動など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当上期の業績概要

当事業の主要市場である電子材料業界は、PC・スマートフォン等の民生品は回復感が乏しいものの、旺盛なAI関連投資を背景に先端分野においてはサプライチェーン上の在庫調整が一巡し、需要が拡大しました。

このような状況のなか、当社は、2022年度からスタートした5カ年の中期経営計画「Beyond500」に基づき、今後も需要拡大が期待される半導体市場への供給力強化を推進しております。

当上期においては、先端半導体向け材料を中心に販売が増加したことから、売上高は187.4億円(前期比36.8億円増、25%増)と増加しました。利益面につきましては、売上増加により営業利益は21.7億円(前期比8.8億円増、68%増)、経常利益は20.6億円(前期比7.0億円増、52%増)、四半期純利益は13.9億円(前期比4.7億円増、52%増)となりました。

また、上期業績予想比では、売上高は達成、営業利益は+6%、経常利益は+3%、四半期純利益も+3%の超過達成となりました。

今期の見通し

当社は、中期経営計画「Beyond500」の達成に向け、大型設備投資を進めてまいりました。化成品セグメントでは、今年3月に淡路工場第2屋内充填所が完成し、これにより半導体向け高純度溶剤の出荷能力は、従来比約3倍に拡大しております。また感光性材料セグメントでは、5月に研究開発と品質管理機能を統合し、生産性や品質向上に向けた製造技術力、分析体制の強化をするため、感光材開発分析棟が完成しました。そして、9月にはArF、EUV向け材料の生産能力を2021年度比1.8倍に拡大する第4感光材工場の先端品生産ラインも完成しました。これらの設備投資により、現中計の大型設備投資は当上期にすべて完了し、市場の拡大に対し、十分な供給体制が整ったと考えております。

2024年の電子材料市場におきましては、各国の半導体産業の国家戦略化や、旺盛なAI関連投資を背景に需要拡大トレンドが継続する見込みであり、各種素材についても需要増加が見込まれております。

これらの状況を踏まえ、8月9日に2024年度の通期業績見通しを修正させていただき、売上高は過去最高の382億円、営業利益36億円、経常利益35億円、当期純利益25億円を計画しております。

下期も先端半導体向け材料を中心に売上拡大は継続する計画でございます。しかしながら、下期は当上期に完成した新規大型設備の稼働開始に伴い償却費や人件費などの固定費が上昇する見通しであり、下期単体では一時的に利益減少の計画となっております。当社の中長期の成長を見据えた戦略に、皆さまのご理解賜りますようお願い申し上げます。

株主還元について

株主の皆さまへの還元につきましては、安定配当の維持を基本としつつ、業績、配当性向、財務バランスなどを総合的に勘案して決定しております。この方針のもと、当期は、1株当たり年間40円の計画をしており、中間配当につきましては期初計画通り1株当たり20円の配当とさせていただきます。今後も事業成長投資と財務健全性とのバランスも勘案しつつ、事業の拡大とともに株主の皆さまへの還元を図ってまいりたいと考えております。

株主の皆さまにおかれましては、何卒、当社の持続的な事業成長にご理解賜り、引き続き変わらぬご支援賜りますようお願い申し上げます。

TOPIC

感光材開発分析棟が竣工、感光材の製造設備を増設

当社千葉工場では、主にディスプレイや半導体の製造に使用する感光材を生産し、国内外のフォトレジストメーカーへ供給しています。

2024年5月に感光材開発分析棟が竣工しました。これまで分散化していた研究開発・プロセス開発・品質管理部門を1つの拠点に集約し、開発から量産立ち上げの迅速化を図ってまいります。また、分析体制の大幅強化や開発能力を拡充してまいります。

また、2024年9月には、先端半導体向け材料の製造設備を増設いたしました。この設備投資により、ArF、EUV向け材料の生産能力は2021年度比で1.8倍に拡大します。

Beyond500(現中計)の設備投資計画は、計画通り進捗しており、大型投資は、先端半導体向け材料の製造設備の増設で完了となります。これまでに実施してまいりました設備投資により、今後さらに成長・進化が見込まれる半導体市場の需要に応え、安定供給体制を実現してまいります。



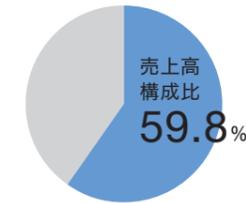
千葉工場 感光材開発分析棟(投資額:約30億円)



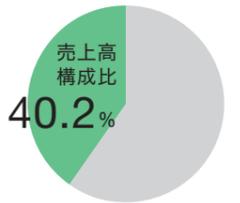
千葉工場 第4感光材工場能力増強(投資額:約120億円)

セグメント情報

感光性材料セグメント



化成品セグメント



業績の概況

半導体向け材料は、旺盛なAI関連投資を背景に先端分野の需要が増加し、当社製品の販売も拡大しました。ディスプレイ向け材料は、中国を中心にパネル生産が一定レベルで保たれたことから、当社製品の販売も堅調に推移しました。

この結果、同事業の売上高は112.0億円(前期比19.0億円増、20.5%増)、営業利益は10.3億円(同2.3億円増、29.3%増)となりました。

業績の概況

電子材料関連製品は、半導体向け需要の増加や電子部品向けの緩やかな回復を背景に、高純度溶剤の販売が好調に推移し、前期比で売上は増加しました。香料材料関連製品は、トイレットリー向け香料の需要回復により海外販売が好調に推移したことから、前期比では売上が増加しました。また、タンクターミナル関連は、基礎化学品の需要の弱さから荷動きの低迷が継続しているものの、旺盛なタンク需要によりタンク契約率は高水準で推移しました。

この結果、同事業の売上高は75.4億円(前期比17.8億円増、31.0%増)、営業利益は11.4億円(同6.4億円増、129.4%増)となりました。

